

A-3: URA組織・人材・役割

開催日時・会場 9月3日(火曜日) 15:50-17:20 B202(2階)

URAのスキルアップ、ステップアップを考える -プログラム・マネージャー育成・活躍推進プログラム修了生からの提案-

本セッションの狙いは、プログラムマネージャー(PM)とは何をしているのか、マネジメントにどのようなスキルや知識が必要なのかを知っていただき、URAとしてのスキル向上やキャリア形成を考える場としたい。本セッションはN-3「URAにとってのPMとは」とA-7「URAの人的ネットワークから得られるものとは?」と連動しています。

2011年に文科省のURAを育成・確保するシステムの整備を皮切りに、全国にURAが配置された。同時にURAスキル標準を起点として、各機関のミッションや思いにより、URAの業務は多種多様になってきている。URAは研究プロジェクトや様々な学内プログラムやプロジェクトの企画・運営に携わっており、プログラム/プロジェクトのマネジメントスキルが求められる場面が多くなっている。

日本では米国・国防高等研究計画局(DARPA)を参考にしたPM型の研究開発プログラムImPACTやSIPがスタートするなど、PM主導の研究開発プロジェクトが増加しており、PMの必要性が高まっている。しかし国内ではPM人材が不足しており、PMの育成と人材確保が急務となっている。

科学技術振興機構(JST)においてプログラムマネージャーの育成を目指し、PM育成・活躍推進事業を2015年から開始した。PM研修ではPMに必要なカリキュラムを構築し、最高の講師による研修を行っている。研修には企業、大学、政府等の様々な機関から様々なバックグラウンドを持ったPMを志す人材が集まり切磋琢磨している。

セッションではJSTからPM育成・活躍推進事業の全体概要や将来構想、さらに大学、国研、企業を背景としたPM研修修了生から、研修を活かしてどのような業務を行っているのか、どのような点が役に立っているのかをご紹介いただく。皆さんでURAにとってPMのどのようなスキルが役に立ち、どのようなキャリアパスが考えられるか議論を行いましょう。

オーガナイザー

寺本 時靖:神戸大学 学術・産業イノベーション創造本部
学術研究推進部門 特命准教授(URA)



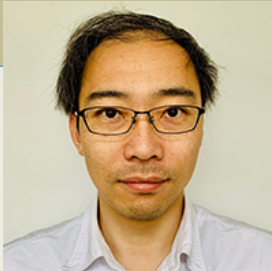
学位取得後の博士研究員を努めた後、URAとしてのキャリアを2009年から金沢大学でスタート。科研費の支援や若手研究者の支援、大学の研究戦略立案支援など幅広い業務を経験する。またURA組織化にも関与する。2014年に母校の神戸大学へ移籍。これまで大小200件以上の申請支援や企画、2つの大学の研究戦略に携わる。特にマネジメントと若手研究者支援、プロジェクト創生に興味を持っており、知識と経験を蓄積中。PM研修4期生。

丹野 史典:福島大学 研究振興課 特任専門員(URA)



学位取得後、博士研究員を経て福島県の民間企業(サービス業)へ。その後、東日本大震災に立ち上がったJST復興促進センターで復興支援のための産学連携を経験した。平成29年より福島大学へ移り、大学側の立場に立った研究支援に飛び込んだ。現在は研究費獲得支援、企業とのマッチング、研究成果の発信などを中心に活動している。また最近では福島県内における支援人材のネットワーク強化にも力を注いでいる。PM研修4期生。

**松原雄介 : 国立大学法人東北大学
研究推進・支援機構 URAセンター 特任助教**

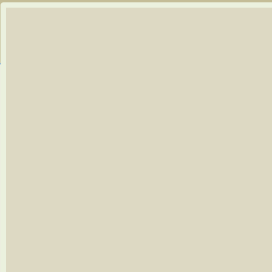


民間企業(製薬)での研究者を経て、2015年3月より東北大学URAとして、産学連携や、センター・オブ・イノベーション(COI)事業における拠点運営、研究推進等に従事している。また、官民イノベーションプログラムでのベンチャー化支援にも従事している。

組織対組織の連携や、コンソーシアム型の研究開発など、産学連携の大型化に向けた企画立案・推進していくべく、JSTのPM研修の4期生として修業中。

講演者

**小林 正 : 科学技術振興機構
イノベーション人材育成部 部長**



科学技術振興機構において、経営企画、技術移転、基礎研究の各業務等にたずさわる。FY2014~FY2018においてプログラムマネージャー(PM)型プログラムである革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)の運営管理に従事し、2019.4より現職でプログラムマネージャーの育成を目指すPM研修を担当している。

**中川勝統 : 株式会社マクスエンジニアリング
技術部開発室**



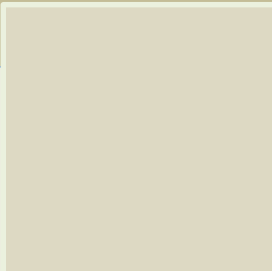
2009年、名古屋工業大学大学院博士後期課程を修了。博士(工学)。博士研究員等を勤めた後、2014年(株)マクス・シントー(現(株)マクスエンジニアリング)入社。上下水処理プラント機械の設計製作と上下水道事業での新商品開発に従事。2016年、JST「プログラム・マネージャー育成・活躍推進プログラム」に採択。研究開発プログラムテーマは、3次元画像解析顕微鏡を活用した上下水処理での障害微生物の自動判別システムの事業化。

**中島広子 : 国立研究開発法人防災科学技術研究所
気象災害軽減イノベーションセンター 連携推進マネージャー**



文系出身。社会人を経て大学院で環境科学の学位取得。国立の研究機関で研究員として勤務後、産学官連携の世界へ転身し、財団やファンディング機関で活動。サイエンスコミュニケーション、産学官金連携コーディネート、プロジェクト推進等を行う。現職では、プログラムマネージャー(以下、PM)率いるJST事業にて、これまでの経験を活かし業務を遂行中。

**斎藤茂樹 : 名古屋大学 学術研究・産学官連携推進本部
リサーチ・アドミニストレーター**



国内外で博士研究員として研究に従事した後、2013年より名古屋大学 学術・産連本部で URAとして働いています。JST COI、OPERA、農水異分野融合共同研究等の起ち上げに関わりました。その後、知財・技術移転グループに異動し、ライフサイエンス系の技術移転活動を中心に、名古屋議定書に対応するための学内実施体制の構築に向けた業務等を行っています。JST PM 育成・活躍推進プログラム第1期生です。